

澄んだ目で誠を実践する第一人者

田中先生は我が国屈指の児童精神医学の泰斗であり、並ぶ者のない臨床家として、つとに有名です。先生は私ども法人の仲間ですが、私にとってはかけがえのない友人です。

ひとが他者に与えられる最高のものがあるとすればそれは、「誠」をおいて他にないと思いますが、先生の日々の臨床実践と幅広い学際的活動すべての営みに通底しているのは、人を観る澄んだ目と誠実です。

そうしていつも他者を理解することに、全てを注力している先生のことばは、ですからとても軽やかにひとのところに伝わります。"ごちゃませ"をコンセプトとして血の通った場所づくりにかける私たちの情熱が、先生の言葉に共振し新たな気づきと導きを得る尊い時間になることを願っています。

医療法人社団 倭会 理事長 荻野秀二

“ごちゃませ社会” 特別講演 vol.2 3名の主催者が贈る

開催への思い

発達とは？障害とは？

「診察室で、キミは自分の一部を差し出してくれます。自分の弱いところや哀しみを差し出してくれるのです。僕は、それを切り取りキミを診るわけですが、僕はその前にきちんとキミに僕を差し出しているだろうか、僕はキミにどう診られているだろうか、今さらですが、そんなことを、よく考えます」(支援から共生への道 IIより)

子供の「発達」とは何か、「障害」とは何か、根本的な疑問から掘り下げ、悩みながら診療にあたっている、真摯な向き合い方。一人ひとり、個性ある発達の邪魔をしないこと、そして無理をしないようにサポートをする向き合い方。子どもたちが生き生きと、自分らしく人生を経験できるように、親をサポートする支援。

人を尊敬する先生の思いが伝染して、地域の包容力が広がったら、児童と親が哀しみを抱えて診察室を訪れなくても良いかもしれません。

株式会社 由希
代表取締役 藤田美智代

一緒に寄り添っていく

虚弱児施設の児童指導員として勤務していた際に出会った一人の児童。この子の個別療養計画のアドバイスを頂くために帯広の田中先生を訪ねました。

今まで出会ってきたお医者さんとは違って「診断」や「治療」などの無機質な単語の代わりに、「一緒に」や「寄り添って」といった血の通った言葉が私の心に沁み込んできました。決して当事者扱いや虐待の固定化をせず、親子の結び目に対して深く掘り下げながら長いアプローチを行なう道標をご教示頂きました。あれから30年もの歳月が経過しましたが、田中康雄先生の共生への想いはその時、既に始まっていたのですね。

そんな出会いを今でも誇りに思っています。今回の講演会に関わることが出来たこと、心から感謝と感動を伝えたいと思います。

介護付有料老人ホームチエロ
施設長 奥出敦彦



注目の医師が綴る、心の軌跡。

「支援から共生への道 I・II」

田中康夫 著
出版 慶應義塾大学出版会
各 1,980円